



● 今月の注目記事 ●

P 1～P 3 台風 23 号の被災地出石町鳥居地区での取り組み

P 4～P 5 街人めぐり サンタ団 渡辺正芳さん

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

● 1月15日(日) 御菅地区合同慰霊法要

10:30～(受付10:00～) 御蔵北公園

● 1月17日(火) ろうそく法要

5:00～午前の部 17:00～午後の部

● 2月5日(日) 第3回御蔵百聞くらぶ

語り手・岩田健三郎さん(版画家)

14:00～(受付13:30～) 御蔵通5・6・7丁目自治会館



やすらぎ農園再建に向けて 台風23号の被災地出石町 鳥居地区での取り組み

まち・コミでは、2004年台風23号により、出石川が決壊するという被害にあった、兵庫県豊岡市出石町鳥居地区で、2005年2月より、被害を受けた市民農園予定地(なんと3,000㎡強)を借りて、2007年の市民農園(やすらぎ農園)再建に向けて、鳥居地区住民と共に取り組んでいます。

なぜ?

水害で地域住民が農地の復興になかなか手を回すことができなかった。当時の区長、廣井昌利さんは、「災害の復興が終わった後の課題は、区の活性化になる。有機農業を通じた、都市と農村の交流が区にとって必要だ。」と、予定農地を整備する計画を地域住民に投げかけた。そこへ、泥かきのボランティアに行っていたまち・コミ含め、神戸市民は、廣井区長さんの想い、鳥居地区の今後の活性化維持のための市民農園復興に是非協力しようと取り組み始めた。

まち・コミとしては、短期復旧救援ではなく、復興まちづくりの支援をする団体である。

農作業の支援? いえ授業を受けています。

まち・コミ事務局に、有機農業経験者はいない。なんてことを始めてしまったのか…。そこで有機農法では造詣が深い廣井さんに、有機農業だけでなく、農業の基礎からの指導をしてもらっている。

作業は、まず鶏糞を始めとする有機肥料蒔き(一畝あたり約10袋(約300キ口))に始まり、畝起こ

し、畝立て、苗植えを廣井さんと共同して行う。作業終了には、鳥居地区住民も楽しそうなのか、いや心配なのか手伝いに来てくれ、気がつくくと、神戸・出石の多くの人が畑に集っている。

神戸で参加者を集い、週2回出石を訪れ、畝立て、雑草抜き、間引きを、繰り返します。その間に出石住民との交流や、とりわけ廣井さんの「食の安全」と「農業による地域活性化」の話は、農園作業参加者にとっても熱中してしまう。

参加者は、まち・コミ関係者や、神戸で出石の災害復旧を行った人、御蔵住民と市民農園再建を願う出石鳥居地区住民など。現在まで延べ約400名の応援者に支えていただきながら、農園進めることができている。



収穫日を待つ喜びと不安

3,000㎡という広大な敷地でできる野菜の収穫量は、頒布先のない素人農業集団において、半端ではない。いろいろな野菜を育てているが、多いものでは、じゃがいも2ton、大根1,500本等、到底御蔵地区関係者だけでは、食しきれない量が収穫できる。農地の賃料や肥料代や交通費等、かかる費用はなんとか捻出したい。かと言って、必ず採れるとも限らないので予約販売ともいえない。「あーどうしよう。」

現在収穫日の次の日に、まち・コミ事務所前で、朝8:00～御



蔵の人を中心に購入して頂き、支えられている。安全でおいしい野菜をまずは皆に食べてもらい、水害にあった出石からの野菜で阪神・淡路大震災で得たことを振り返ってもらうことを考え、パネルを置き、農園と出石の復興の話を同時にしている。初めはうまく作れず皆様にいろいろご批判もうけたが、今では廣井さんにみっちり教えていただいた有機農法の野菜なので、おいしいと評判になっている。おいしいのに安すぎるからと「おつりは農園再建に向けてのカンパね」とおいていってくださる人もできた。

地域の食事会ではもちろんのこと、自主的にまち・コミで声かけをして、皆で野菜を食べる回数を増や



している。ほぼ毎日おいしい野菜や料理法の話で賑やかだ。

御蔵やまち・コミ関係者だけでなく、元町商店街や、

大阪十三フレンドリー商店街等他地区も、有機野菜の販売と出石町鳥居地区の復興を応援してくださっている。神戸の町づくり協議会連絡会の祭りや、新湊や神戸のボランティアの集いでも、広報させてもらった。

出石町鳥居地区の再建を願うのはもちろんのこと、素敵なお人に支えられた野菜作りを通じて、少しでも多くの方が、食のこと、まちのことを考え、自分の

生き方にプラスになるきっかけになればと願っている。

参加者李薫さんの感想

日々が過ぎるのは早いもので、2月から市民農園に関わるようになってから、もう10ヶ月が経とうとしています。寒い冬を乗り越え、暖かい春を過ぎ、夏の暑さに汗だくになり、過ごしやすい秋を過ぎ、そして今また冬を迎えました。



夏に比べると、気温も下がり大変な暑さはなくなったので作業はしやすくなったのですが、太陽が昇っている時間が短くなりました。

夏場は5時30分に昇っていた太陽が、今は6時30分過ぎに明るくなってきていますし、19時過ぎに落ちていた太陽は17時には暗くなって来ます。

普段の生活では太陽の昇降などあまり気にする事はないのですが、日が昇ると同時に作業を始め、日が暮れたらその日は終了・・・と、太陽とともに一日を過ごしています。

どの野菜もたくましくスクスクと育っていく姿を見ると、楽しみと安堵感でいっぱいになります。

夏に比べて虫の数が減ったとはいえ、今でも特に葉物(レタス、小松菜、ほうれん草など)には青虫などがよくついています。有機農法なので農薬ではなく、一つ一つ手で退治しています。後は、雑草をこまめに抜いたりしています。

先日、新たに植えた作物はイチゴです。土を耕し、様々な種類の肥料をまきました。肥料のまき方で作物の成長の善し悪しが決まるので非常に重要です。種類がたくさんあり、肥料によってまく量も違うので間違えないようにと何度も確認しながら緊張感いっぱいでした。今の所なんとか無事に育っているようなので、出石の厳しい冬を乗り越え春には赤々としたイチゴが実っている事を願い、胸はワクワクするばかりです。

今育てているにんじんは、ひと畝に3列、発芽率

を高めるために籾殻のようなにんじんの種を密集させて植えるのですが、育ってくると間引き(発育の良い丈夫な作物を選んで残し他の作物



を引き抜く作業)をしなければなりません。手間をかけ想いを込めて育てた分、これは非常に心が痛む作業なのです。より大きく丈夫に育つようになるためには仕方のない事なのですが、隣に生えていてどちらかを選ぶ瞬間はかなり辛いものがあります。だいぶ大きくなっていて、抜いた瞬間ににんじんの香りが



する度に悲しくなるのですが、埋まっているにんじんたちがおいしく育つ事がまた喜びに変わるのだ、と言いつつ聞かせて収

穫出来る時期を待ち遠しく思っています。

作物の育つ日数は、日々の土の中の温度を足していくとだいたいわかるそうです。例えば、だいこんが1000度で適切な収穫時期が来るとします。土の中の温度が毎日だいたい50度としたら $1000 \div 50 = 20$ でだいたい20日で出来ると計算出来るそうです。

お世話になっている広井さんは、自らで勉強された有機農法の様々なやり方を惜しみなく教えて下さっています。雑草の抜き方、肥料の撒き方・量、野菜の収穫の仕方、土の盛り方・・・等々、農業のやり方や農業に関わる様な事を教えて頂き大変勉強になっています。広井さんはとても探究心のある方で興味深いお話を伺いながら広井さんのお宅で昼食をご一緒にする事もあります。

広井さんが言われる「食の乱れが社会の乱れに及んでいます」「今、旬の良さを忘れかけています。全ては旬があります。作り時、食べ時があるんです」等、食べる事や口に入れる物、その季節に応じた【旬】の食べ物に季節を感じる事の大切さ。

食べる事 - それはいろんな事に通じる、とても基本的な事であると思います。

あとがき：私がこの市民農園に参加し出したのは6月の半ばからです。暑くなりだした頃で、暑さでフラフラしながら、大変さはわかっているつもりでしたが、こんなにも大変なものかと実感し、食べ物は粗末にはしてはいけない、と改めて心に刻んだ事を覚えています。大変ながらも楽しさややりがいを感じ、今では仕事が休みで行ける時には月に1、2度参加しています。

元々、家で料理する事もあまりなく「食(材)」に

対して全くと言っていい程こだわりがなかった私ですが、市民農園で穫れた野菜を何の気なく料理して食べるようになってから「にんじんって皮を剥くだけでこんなに香りがするものなんだ」「これが本当の野菜の味なんだ」と感じ、今まで食べていた野菜では感じなかった、【野菜自体のおいしさ】に気付いてから随分意識が変化しました。

以前、何かのテレビ番組で見たのですが、「10年前の食生活は今の体調面に表れていて、今の食生活は10年後に表れる」そうです。

広井さんが「医食同源、口に入るもの全て毒にも薬にもなる」と言われていましたが、その通りだなと思いました。口から入るものは全て自分の体の血となり肉となり骨となるので、体を形成する上で非常に重要なものとなるのです。

旬のものを旬の時期に美味しいと食べられる生活、そういう自然の流れに沿った生活の中に充実した心と体が作られるのではないかと感じています。

やすらぎ農園(市民農園)構想概要

都市と農村の交流を目的に、約15,000㎡に114区画の貸し農園を整備。農園周辺には、交流スペースや、栽培指導をする施設や、地元ご婦人達によるおいしい料理を出す飲食店も計画中。2006年末完成予定。

廣井さんの紹介

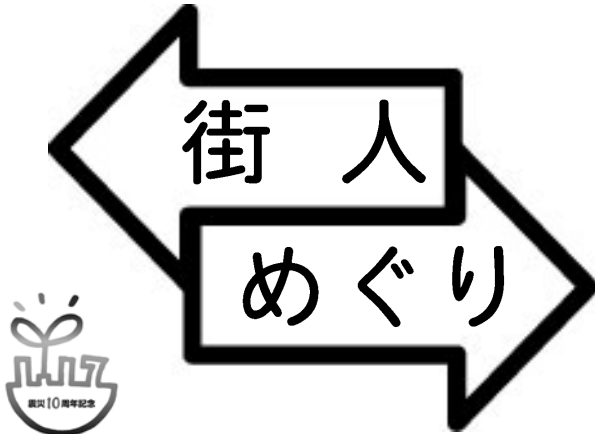
廣井さんが農業を始めたのは、48歳。健康のため大手自動車メーカーの営業所長職を辞して転身し、無農薬有機で安全安心の野菜と果樹の複合経営を目指す。当時すでに農業は衰退の一途。農協や普及センターを頼っても、未来は見えてこないと判断し、独学で医学書や微生物の本を読破することからスタートしたという。現在では、糖度が高いことが認められ、独自販売経路を開拓し、阪神間や但馬地方のスーパー等で「廣井さん家の有機野菜」として大人気販売中。



応援団募集中!

廣井さんの丁寧なご指導の元、春には安全でおいしいたまねぎとじゃがいもがたくさんできます。ご希望の方は、まち・コミまで。

経験の共有から課題の共感へ



若者パワーで 子ども達に笑顔を

サンタ団

団長 渡辺正芳さん

高校生が中心となり、長田区内の子ども達の笑顔のため、年間を通じて地域活動をしている「サンタ団」。メインの活動は、クリスマスイブの夜に子どもにプレゼントを届ける「サンタがうちにもやってくる！」。今年で3年目のイベントで、子ども達はサンタさんからのプレゼントを心待ちにしている。

団長の渡辺正芳さんに、活動のこと、そしてご自身のことについてお話を聞いた。

サンタ団発足のきっかけは？

今、夜間高校の3年生ですが、1年生の時、長田ボランティアセンター(以下、ボラセン)から、クリスマスに向けてのボランティア募集がありました。活動内容は、クリスマス前と当日のイベントスタッフです。ボランティア参加者を対象に、バルーンアート講座が開かれることになっていました。その講座は学校の授業がある時間帯だったのですが、受講すると公欠になったんです。学校を堂々と休めるのがうれしくて、イベントに参加することにしました。この時はまだ、「サンタ団」という名前はなく、12月24日に子ども達にプレゼントを配ることでイベントは終了。予定ではこの時限りのボランティアだったのですが、後日ボランティアが集まったときに、継続した活動をしたいということになり、サンタ団となりました。事務局は、長田区社会福祉協議会内にある長田ボランティアセンターです。

メンバーは？

サンタ団は17歳から30歳まで、ほかにはサンタ団を支える30歳以上のOBサンタがいて、現在総勢40人近くいます。OBはうち半分ぐらい。高校生が中心で、入団したときに高校生だった人が大学生や専門学校生、社会人になっても活動を続けている人もいます。基本的にみんな子どもとイベントが好きです。

必要に応じてミーティングを開いて、企画内容について連絡相談し、役割を決めていきます。出席できなかった人への連絡はメーリングリストで行っています。学校や仕事があるので、全員がミーティングやイベントに参加できるわけではありませんが、気軽に続けてもらえればと思います。無理すると、気分的にボランティアではなくなってしまうから。

活動は？

「サンタがうちにもやってくる！」は、クリスマス前に保護者から預かった子ども(おおよそ小学校2年生以下)へのプレゼントを、クリスマスイブの夜にサンタの服装に身を包んだサンタ団が家まで届けるイベント。40軒の申込みを受け、サンタ団が7つの班に分かれてプレゼントを届け、バルーンアートや写真撮影等、玄関先で子ども達と一緒に楽しみます。

また夏休みの終わりごろに、長田神社前にある長田中央市場と共同でイベントを開催。夏休み



渡辺正芳さん（左下）



2004年クリスマスイブのサンタ団

の宿題に役立つペットボトル貯金箱作りや、トントン紙相撲大会、バルーンアート教室などを行い、今年は3日間で300人を超える人が集まりました。ボランティアがこんなことをやっているということ、市場に来たお客さんに知ってもらえればと思っています。

団長になって

当時一番年下だった僕が団長になったのは、ボラセンの人にたまたま指名され、後に引けなくなってしまったから。30人ぐらいいましたが、双子の兄と一緒に参加していたので、目立っていたのかもしれませんが。僕は今まで、学校でも学級委員などしたことがありませんでした。だから、最初はメンバーに指示を出したりすることに戸惑いました。一番年下で、こんなに頼りない僕がなんでリーダーになったんだろうと思うこともありました。けれどもリーダーを任された時のうれしさが、やる気を起こさせたと思います。

今では人前で話すことが苦にならず、学校では委員長をしています。自分自身では、団長になったことで特に変わったとは思いませんが、周りから信用されていると感じることがあり、励みになります。団長の役割は、僕にとって社会勉強かもしれません。いろんな経験をし、いろんな人に会えます。ボランティアは、人との関わりが大事。これからも、学校・アルバイト・サンタ団を

バランスよくやっていきたいです。

今後のサンタ団について

新メンバーを増やしたいです。進学や就職で、今いる団員は、参加できる時間がどうしても減ってしまう。子どもが好きで、ボランティアをしてみたい、ボランティアに興味がある、という人はぜひサンタ団に入ってほしいです。ボランティアをすることで、楽しいことがいっぱいあることを、体験して知って欲しい。

サンタ団は地元の10代～20代が、地域の中でする活動です。積極的に活動をPRするのではなく、買い物の途中など、自然な形で活動を見てもらい、近所の人たちの話題になり、若者が町でこんなことをやっているということを知って欲しいです。そしてメンバーが増えればと思います。また、今からあと3～4年もすれば、サンタ団1年目のイベントに小学校高学年で参加した子どもたちは、入団できる17歳になるので、今度はサンタ団としてイベントに参加してくれることを期待しています。

サンタ団メンバー募集中！
17歳～30歳まで
子どもが好きな人
やる気のある人

お問い合わせ先・・・
長田ボランティアセンター
TEL：078-574-2408



みくらエッセイ

平成17年 震災学習で御蔵に来られた生徒さんからのお手紙(抜粋)

今回のみくらエッセイは、今年10月19日に御蔵に来られた、神奈川県伊勢原市にある向上高等学校のみなさんからのお手紙の一部をご紹介します。

僕が一番印象に残ったのは慰霊碑でした。あのように幻想的な形で被災者のことを忘れないようにすることに、僕はとても胸を打たれました。また、その土地の文化を絶やさないように頑張った人達もいたということに感心しました。 市川篤志

地震の大変さを学びました。被害のスゴさを感じました。それ以上に人間が協力しあうことのスゴさや、大切さを学ばせていただきました。ありがとうございました。 芳澤和哉

貴重な震災体験をきかせていただきありがとうございました。命の大切さ、人とのつながり……。震災というのは失うものも多いけれど、場合によっては得られるものもあると思いました。ただ、何かを得るためには、失ったものの重大さに気づき、伝えていかなければだめなのだと思います。 馬場哀梨

こんにちわ。心の旅では、いろいろ神戸の震災について教えていただきありがとうございました。一番印象に残ったことは神戸の町です。震災で家も家族もなにもかもなくなった町が住民の協力や力で、あそこまで復元できるなんてすごいと思いました。これからの生活の中で自分も大切にす、相手はもっと大切にしなきゃいけないことを教えてもらいました。 内藤貴代

先日は震災についてのお話を聞かせていただき大変ありがとうございました。震災直後の話はとてもショックでした。震災時に8割の人が死んでしまうということを知って、ひどく心が痛みました。しかしほんの十数年で町がもとのようになおったことにとてもおどろきました。みなさんの地区の住民の繋がりも、とてもおどろきました。僕の町にもみなさんのような地区の住民の繋がりがとても必要であると感じました。 小倉弘基

先日は、いろいろとお話をして頂き、ありがとうございました。はじめは震災がどのくらいのものか想像もつきませんでした。震災の体験談を聞いて、かなり興味を持ちました。一番印象に残ったのは、クスノキでした。遠くで見ると何か何だかわからなかったのですが、近くで見ると話を聞いて、あのクスノキカ町の人々の勇気になっているんだなあと思いました。あのクスノキを見て、これからも一生懸命生きていこうと思いました。 又吉優介

先日はありがとうございました。今まで震災についてはテレビなどで見てきましたが、どこかで他人事のように思っている自分がいました。でも今回初めて本物を見て、神戸のみなさんは地震の被害を風化させないように、私たちに同じ思いをさせないように伝えてくださったのではないかと考えました。これからの生き方や考え方にすごく影響を受けました。ありがとうございました！！ 齋藤明恵



まち・コミおすすめBOOK

「山古志村 ふたたび」

著者：中條均紀

出版社：小学館 定価：2100円（本体＋税）



2005年10月23日に訪れた山古志村(現:長岡市古志)倒壊家屋も多く残されたまま、地震の被害が痛々しい。「道路OK 明日から今までの道路が通行可能になりました。雪下ろしも車が入る事ができます。やった!!」

山古志村に隣接する小千谷市塩谷のKさんから12月12日に届いたメール。山と谷に囲まれた集落へ、去年は雪の中を2時間歩いて雪下ろしに行ったという。

豪雪が勝り、雪の重みに押しつぶされた家屋も少なくない。今、仮設住宅で迎える2度目の厳しい雪の季節。それでも塩谷に向かう道に除雪車が入れるようになったことをとても喜んでいいる。厳しい環境だからこそ些細な喜びも大事にしているようにも思える。厳しい生活が続く中越の里。けれど里の景色はそれでも美しく、目を和ませてくれる。連なる山と谷は季節の移り変りを正直に伝えてくれる。鯉を放つ野池や棚田、かやぶき屋根。昔ばなしの絵本に迷いこんだような風景。「急に霧が赤く染まってきて、ほんの10数秒間だけ、棚田も赤く染まった(文中より) 刻一刻、無限に表情を変えて、一つとして同じ景色がない。きっと山々にも草木にも、冬は厳しく、だからこそ命を燃やす喜びが美しく写るのだろう。一瞬の里の表情、人々の表情が残されている。

「このおとぎ話が幸福な結末でありますように。(文中より) 願いを込めた写真集は、四季に彩られた景色に、人々の営みが溶け込んだ、かつての里の風景が目の前に現われる。(吉田)

大地のつぶやき

疎開の記憶と学童時代(II)

神戸や三宮界隈は焼け野原になっていて、居留地辺りはMPが随所に行き、ある所には何でもあるのと人ごみに驚いた。家のすぐ側の住吉川は十三年の水害の跡が至る所に残り、どこ迄が河川敷なのか境がない。大きな転石がごろごろしていて所々きれいな湧き水が吹き、朝の散歩の途中に顔を洗ったりした。

昭和二十二年に本山第二小学校に入ったが、ここでも近所の悪童と一緒に阪神国道電車のタダ乗りをした。前の出口と後の出口二手に別れ、前は後で、後ろは前で払ったと言って降りるや否や一目散に走り去る。母親と国道電車に乗って森市場に行ったり、その頃青空市場の甲南市場に行った。小学校ではガリオアエロアから時々乾燥した蠣や卵の黄味の粉末が配られた。同居していた人から進駐軍の小粒のつるつとしたチューインガムや板チョコを貰って食べた。同居の一人に旧制甲南高校のお兄さんがいて国道二号線を逆立ちして横断して見せてくれた戦後ののんびりした時代。

父の転勤でその頃大阪府中河内郡龍華町太子堂に転居したのが昭和二十二年の夏。神戸の背山六甲山系に比べて少しく低くひっ込んだ信貴生駒山系、一気に田園風景に飛び込んだ。広い校庭に二、三度集められ進駐軍の兵士が中型車にコンプレッサーを引張って来て、袖口や襟元にホースを突っ込みDDTを噴射、真っ白になった。昭和二十三年に八尾が市に昇格して日の丸の旗を作って駅へ行進した。真紅のワンピースを着た近所のお姉さんから、"you are my sunshine"を教えて貰い家に帰って口づさんでいたら母から叱られた。夏のシャツがなかったのでカーテンを転用したり、冬服の一張羅は父の軍服を仕立て直して貰ったが重たかった。一升ビンに玄米を入れて、はたきを逆にして突き、精米したり、毛糸の巻き取りの手伝い、洗い張りの布はがしや伸子張の円弧上になった竹ひご取りなど子供の仕事だった。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

8・9月

- | | | |
|----------------------|-----------------|-------------------|
| 8/2 河内音頭盆踊り大会 | 8/17 兵庫県互助会講演会 | 9/3 まごころみくら打ち合わせ |
| 8/2 ~ 8/17 明石高専研修生受入 | (北播磨) | 9/5 志免町婦人部震災研修受入 |
| 8/3 復興誌打ち合わせ | 8/17 愛知万博にて講演 | 9/19 東京都稲城市立 |
| 8/3 兵庫県互助会講演会(丹波) | 8/28 551 蓬莱羅社長に | 稲城第六中学受入 |
| 8/4 専修大学大矢根研究室 | 台湾民家移築の相談 | 9/20 松江市立鹿島中学校受入 |
| 研修受入 | 8/29 台湾古民家移築打合せ | 9/28 東大阪打ち合わせ |
| 8/10 兵庫県互助会講演会 | 8/30 神戸大学講演打合せ | 9/29 自治会館会議出席 |
| (中播磨) | 8/31 古民家移築打合せ | 9/30 まごころみくら打ち合わせ |

ご支援、ありがとうございます。

8月1日～9月30日

賛助会員(新規・継続)

8月 中村博行(埼玉県) 杉本政子(豊岡市) 直田春夫(大阪府) 中西義和(大阪府) 田中定(豊岡市)
 川村武也(神戸市) まちの縁側育くみ隊(愛知県) 曾家末晴(神戸市) 末正盛隆(神戸市)
 日野由美子(神戸市) 橋本渉一(神戸市) 小林由佳(神奈川県) 樽本憲昭(加古川市)
 9月 笹倉亨介(神戸市) 池田浩敬(静岡県)

協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し金銭面で支援していただいています。まち・コミを運営していくにあたって、最低限必要な費用を助成金だけでまかなうには、限界があります。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきますので、現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。

賛助会員になると...

本誌「月刊まち・コミ」が送付されます。
 まちづくりについての自由闊達な情報交換・意見交換の場(メーリングリストなど)に参加できます。
 まち・コミ関連の催しへの参加料が割引されます。
 まち・コミ関連の出版物の購入費が割引されます。

まちづくりなどに関する様々な相談に、まち・コミスタッフが応じます。

よろしくおねがいたします。

編集後記 今年の盆踊り大会は、ここ数年よりは多かったようで、昨年と同じ数、240本用意していたアイスクャンディが足りないほど。300人来場かな?(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2005年9月1日発行
 編集/発行 まち・コミュニケーション
 定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014
 神戸市長田区御蔵通5-92-2 みくら5 101
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052
 東京都新宿区戸山1-24-1
 早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580
 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1
 専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
 URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/